

たかまがれたまれた。またが、の皆様は日頃、高瀬川流域、小川原湖を守るお仕事をされています。講義では、高瀬川 と小川原湖の関り、小川原湖について、湖間 道辺の動植物について学びました。



もともと海の一部であった小川原湖。約3000年前、海の出入丘が砂でふさがれたり地形が変化していき、少しずつ今の小川原湖が形成されたそうです。湖面は青森県では最も党きく、その面積は筌国では第11位。汽水湖では第5位の広さのが湖です。

小川原湖は国内に18か所しかない大変貴量な気水湖です。小川原湖周辺には、絶滅のおそれがある"重要種"とされる貴量な野生生物が生息しており、黄には、絶滅危惧種オオセッカの生息が確認されて以来、保護活動が展開され国指定島、獣保護区に指定される仏沼があるなど、たんけんクラブの会員たちは分からないことなどが知れて、とても首を輝かせていました。





学習会では、クラブ会員はお話しを聞きながら メモをとり、また、レポートに書きとめ、自分な りにまとめあげ、学習会が終わるとほとんどの 会員がレポートを完成させ提出していました。 その様子を見てジュニア井上会長はとても 感心されていました。

宝湖館での学習の後、バガカウ。歯瀬漁業協同組合にて、シジミのせりの見学をしました。



初めて見るシジミの競りに感激と、私たちの食草に並ぶまでにこのような背景があることが分かりク ラブ会員は感動していました。

最後に、小川原湖漁業協同組合代表理事組合長 濱田 正隆 様とお会いすることができました。



濱田組合長は平成29年5月に、全国内水面漁場管理委員会連合会の新会長に就任され、全国トップクラスの漁獲量を誇る本順のシジミ、シラウオなどの魅力の積極的なPR活動の他、ニホンウナギの資源保護などに尽力されています。

パスでマリエントに帰館。



マリエントに到着後、井上貫之会長、マリエント吉井仁美館長よりご挨拶を頂戴し、無事、活動を終了しました。





最後となりましたが、当企画をとおして、自分たちが住んでいる故郷、地域にはどのような水産資源があり、それを多くの人たちが様々な工夫や取り組みをして届けられているのか学習することができたとともに、小川原湖の自然、川とが湖の役割について深く学ぶことができました。

今回ご協力、いただきました国土交通省東北地方整備局高瀬川河川事務所の皆様、濱田組合長はじめとする小川原湖漁業協同組合の皆様、東北町、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブジュニア会長シニア副会長井上貫之様、そして当企画にご参加いただきましたクラブ会員をはじめご交兄の皆様、東北町、マリエント「ちきゅう」をはじめご交兄の皆様、東北町、マリエント「ちきゅう」をはじめご交兄の皆様、